

花火大会の裏で

上田悠貴（兵庫・関西学院中学部）

僕は先日久しぶりに友人たちと花火大会を見に行った。新型コロナウイルスによる制限がない開催は4年ぶり、夜空に広がる幻想的な光と音を沢山の人が楽しんでいた。この素晴らしいイベントが、自治体の税金によって支えられていることを知り、新たな視点から税金の重要性を考えるきっかけとなった。

花火大会は、地域の文化やコミュニティを活性化させる貴重なイベントだ。美しい花火や賑やかな音楽の背後には、多くの準備や計画、費用が必要だ。その費用の一部は、自治体の税金から賄われていることが多い。税金は、僕たちの生活を豊かにするための基盤となるものであり、花火大会といったイベントを通じて、地域全体に幸福感や活力をもたらす役割を果たしている。

また、花火大会には大勢の人出があり、警備も大変だ。警察や消防、救急隊などが万全の態勢で待機し、安全を守るために活動してくれている。その警備活動にも税金が使われている。花火大会が安心して楽しめる環境を守るためにも税金がどれだけ重要な役割を果たしているかを実感した。

地域の文化や活気を育む場として重要な役割を果たしている花火大会だが、中には「税金を花火に使うのは本当に正しいのか？」という疑問や意見も存在する。花火大会に使われる税金が、他の社会的ニーズへの資金の供給を阻害しているのではないかという意見である。生活に困窮している人への支援や社会的課題への取り組みに税金を充てるべきだという意見は根強く、花火大会自体に疑問を抱く人もいる。このような視点から見ると、花火大会に税金を使うことに対する懸念や批判は避けて通れないだろう。こうした意見を見無視せず、花火大会にかけられる税金の妥当性を検討することも大切だ。

地域の花火大会は、僕たちの心を温かくするだけでなく、税金の使い方や地域への貢献の意識を育む場でもあった。税金と地域の結びつきを考えると、税金は単なる負担ではなく、地域社会を維持し発展させるための重要な支えであることがわかる。税金の使い方については様々な意見があることを無視せず、議論を行ったうえでバランスを取りながら決めていくことが大切なのだと感じた。花火大会を通じて、税金の用途についての意識を高め、地域社会全体の幸福度向上につなげていくことは今の僕たちにもできることだ。さらに僕たちの生活に密着した税金の使い方が、よりよい社会を築く一環として、大切な存在であることを再認識した。